

者や地域のみなさんの協力により、問題もなく円滑に運営されています。

教育関係施設の整備では、村民会館の外壁塗装工事、大ホール脇のトイレ改修、ふれあいどくむの床面を全面人工芝にすることなどの工事を予定しています。



## 芸術文化

重要文化財渡邊邸の大規模改修については、26年度までの7年間に8億円を超える継続事業で進められており、引き続き村からも負担し事業の推進に協力します。

## 福祉・健康・医療

### 社会福祉・高齢者福祉

高齢者や障がい者の介護が必要になったときに相談窓口となっている地域包括支援センターは、ますますその重要性を増しています。昨年は、介護保険料の問題で全国の注目を浴びました。介護予防を啓発する趣旨で、昨年は介護保険制度を利用していないみなさんにプレミアム商品券を贈呈しましたが、今年も継続して実施します。

これまで村政の柱としてきました子育て支援については、保育園の円滑な運営や中学校卒業までの医療費支援、女子中学生への子宮頸がん予防ワクチン接種の無料化などの対策を今年度も引き続き実施します。また、不妊治療に対する助成については、要件を緩和して支援します。

社会福祉政策では共助・公助という考え方を基本とし、共助では集落、コミュニティ組織の取り組みとともに、村社会福祉協議会などとの連携

のもとにボランティア活動の助長などに努めたいと思っています。

### 健康づくり・医療

健康づくり運動としては、村民の健康づくりの指針である「健康せきかわ21」に沿って事業を実施しますが、なかでも村民の意識高揚が重要であります。若い時代から生活習慣病などの疾病予防について学んでいただくため、各種の講座や訪問・相談活動の推進に努め、村民挙げて健康づくりができる機運を高め、早期発見、早期治療となるよう、予防活動を進めてまいります。また、村では働き盛りの年代の自殺が多く、人口対10万人での自殺率は県内平均を大きく上回っています。関係機関との連携のもとに、地域での気づきの重要性についての普及啓発など、自殺予防対策に努めます。

国民健康保険事業について、財政を調整するために設置している基金が25年度で底をつくことになりました。国民健康保険税は、現在の村民所得を考えるとおのずと限界があ

るため簡単に増税はできず、たいへん苦慮すべき局面となっています。こういった状況は全国の自治体それぞれに共通しており、国において早急に対策を講じてもらう運動を展開しています。しかし、すぐに状況が好転するとは思えないことから、25年度では初めて一般会計から支援しやつと予算をとりまとめることにしました。



## 産業振興

### 農業の振興

ここ数年の気象異変により、

岩船産米の品質は低下しています。24年岩船産コシヒカリの1等米比率は57・0%となりましたが、極端に低い地域を除くと平均は70%台であり、関川村は71・6%にとどまっています。日本穀物検定協会が2月14日に発表した24年産米の食味ランキングによれば、「岩船コシヒカリ」は7年連続で「特A」という評価を得てひとまず安心していきます。

しかし、いま米の産地間競争がいつそう激化しており、山形県産「つや姫」や北海道産「ゆめぴりか」、それに今回最も評価の高かった熊本産「森のくまさん」などといった市場評価の高い銘柄が登場するなど、新潟産コシヒカリといえども楽観できない状況となっています。食味は需要に影響し、米生産目標面積の割り当てに影響することは必至であります。岩船コシヒカリの品質向上のため栽培技術を高めて市場の評価を損ねないように努力しなければなりません。25年度について県から示された関川村の生産目標数量は、引き続き前年に比べて若干ではあるものの減っており、関川村農業再生協議

会で配分などの方針を定め、すでに農家のみなさんには協力をお願いしているところでもあります。

政権交代は農政の基本的な方針を大きく変えるのではないかと思います。どのように変化するのか、注意深く見守り、村の農政に反映させたいと思います。

一方で、政権交代は農業基盤の整備に追い風になるものと期待も膨らみます。県営事業として継続の新堀用水路整備、畷江沢地区圃場整備中山間総合整備事業に加え、女川地域の整備に弾みがつくものと期待されますので、その流れが本物になるよう関川村土地改良区とともに要望活動に努めます。

また、ほ場整備の推進に伴い、埋蔵文化財の調査も必要であり、その準備を整えたいと思います。

## 林業の振興

近年、林業振興に対する国の関係予算が厚くされ、林業への関心がいつそう高まり、全国的に様々な取り組みが行われています。村では、森林

組合を中心にして推進してきています。間伐については切り捨てから収入を得る方向に補助金制度が転換されつつあります。先に述べた木質バイオ発電事業は、それに沿った動きでもあることから、関川村森林組合とも協力しあい、村内林業の振興を図ります。

また、関川村森林組合が中心となつて進めてきている特用林産物の菌床生しいたけ栽培事業は、一時全県トップの生産量を誇りましたが、各種の要因によつて組合や農家それぞれの経営状況が思わしくないため、心配しています。

平成6年に導入した村内の生しいたけ栽培事業をなんとか建て直そうとしています。経営要素を点検し、その対策を進めますが、その一つとしていま新たな種菌の菌床を導入して実験を始めたところでもあります。それらの状況を踏まえ、森林組合、栽培農家と対策を話し合い、経営の効率化と雇用の機会の増加を模索いたします。

林業振興のために不明確な境界を確定しようとして進めている国土調査について、国の予算も増加することから、中東

について現場作業に入り推進いたします。

## 商工観光の振興

プレミアム商品券の発行、リフォーム事業の支援、旅館や飲食店の支援について、村内の経済団体の協力により引き続き可能なものについて進めたいと思います。

わかぶな高原スキー場については、昨年全地権者に5年間延長の契約を認めていた、だくことができました。年々客の入込数が増えており、今シーズンも昨年を若干上回る状況であります。

スキー場は、村の冬の観光には欠かせない施設であり、老朽施設の補修を行うとともに、いつそうの繁栄を期待しています。

## 効率的な行政運営

### 効率的な行政運営

村上・岩船圏域はもちろん、近隣市町村とは文化・経済・社会などあらゆる分野で協力

関係にあり、またこれを維持することは大切であります。

また、共通の事務を共同で処理する一部事務組合、様々な課題に対し一緒に対応している組織などへの参加も関川村を維持・発展させるには必要であります。

関川村むらづくり基本条例の基本理念は「村民参加の村政」であります。様々な機会を捉えて村民のみなさんのご意見をお聴きして村政に当たりたいと思います。事務の改善は常に行わなければならないことであり、懸案であった戸籍の電算化については今年度から2か年の継続事業として取り組みます。

市町村合併に加わらずに自立する方針を決めて以来10年、職員数や議員定数を削減し続けています。また人件費の削減の観点から、県内最低水準まで常勤、非常勤の特別職、一般職の給与・報酬の引き下げなどを行っています。職員数はピーク時に比べ30数人を削減したため、事務量からして限界となっています。将来の職員の人事構成からみると、一時期に幹部職員多数が定年退職となることもあり、計画

的な人事行政が必要でありま。また、職員一人ひとりの能力を高めて行政事務を処理する必要がある、村のことはもちろん、国内外に関するものなどの情報を共有し、階層別研修への参加、職員研修講座を開催するなど勉強の機会を増やし、前向きな思考で行政が進められるよう自己啓発の機運の醸成に努めます。

役場庁舎の耐震工事については、昨年その診断を行いましたので、今後設計に着手し工事を考えます。また防災や庁舎の効率的使用の観点から、2階の旧電話交換室をサーバー室に転換しております。

結びに、様々な課題や問題が山積する村政ではあります。先人が築き上げた歴史と伝統を大切に、この愛する関川村を発展させて後世に伝えていくため一生懸命に努力する覚悟であります。

村議会ははじめ村民のみなさんのおいしい、平成25年度の施政方針説明といたします。